膵臓がん

膵臓がんと診断される人は、年間４３，８６５例（男性２２，２８５例、女性２１，５７９例）で、がんの発生部位別では、男性は９位、女性は７位です。死亡者数は、年間３７，６７７人（男性１８，８８０人、女性１８，７９７人）で、男性は５位、女性は４位と、発生者数に比して死亡率が高いがんです。
膵臓がんは、多くは膵管に発生し、そのほとんどは腺がんという組織型です。
膵がんのリスク因子については、遺伝、喫煙、肥満や糖尿病、膵のう胞性病変や慢性膵炎があります。

症状

膵がんの臨床症状には腹痛が４０％で最も多く、次いで黄疸が１５％の患者さまにみられます。その他に腰背部痛や体重減少がありますが、１８％が無症状とされています。一方、約半数で膵がん発症の２年以内に糖尿病の発症が見られます。

腹痛	膵がんは膵液を分泌する膵管から発生するため、管ががんで詰まると、膵管が拡張して炎症を起こします。これにより腹痛や発熱を伴うことがあります。
黄疸	膵がんにより胆管が圧迫されると、胆汁の流れがさまたげられ、黄疸が出現します。
体重減少	膵臓は胃、大腸、十二指腸などに接しているので、膵臓に腫瘍ができると、これらの臓器を圧迫して、食事がとれなくなり、体重が減少します。 また、膵液の分泌が悪くなると、食べ物の消化吸収が悪くなり、体重が減少することがあります。
糖尿病の悪化	膵がんにより、インスリンの分泌量が低下することで、新たに糖尿病を発症したり、糖尿病が悪化することがあります。

検査

膵がんの診断には超音波検査、ＣＴ、ＭＲＩ、内視鏡的膵管造影、血管造影などの検査が行われます。
これらの検査によって病期（ステージ）が決まります。

ステージⅠ	がんが２cm 以下で、膵臓内部に限局していて、リンパ節転移がない。
ステージⅡ	２cm 以下で限局しているが、近くのリンパ節に転移がある。または、２cm を越えているが、限局していてリンパ節転移がない。
ステージⅢ	がんが膵臓から外に浸潤している。
ステージⅣ	他臓器に転移している。

治療

ステージⅠ・Ⅱが手術適応となりますが、全体の２０％しかありません。それ以外は化学療法を行います。
膵臓がんは、膵頭部にできるものと、膵体部・尾部にできるものとで手術が大きく変わります。膵頭部がんは、膵頭部と伴に十二指腸、胃の一部、胆管、胆のうを切除する、膵頭十二指腸切除術（裏面の図）が行われます。切除範囲が広範で、切除後に残された臓器をつなぐのも大変な作業なので、非常に侵襲が大きい手術です。膵体部・尾部のがんは、膵体尾部切除術が行われます。切除後につなぐ操作がないので、侵襲は少なくなります。

予後

ステージⅠ	５年生存率は４９．５％～５４．１％
ステージⅡ	５年生存率は２１．９％～２３．８％
ステージⅢ	５年生存率は２１．９％～２３．８％
ステージⅣ	５年生存率は１．２％～１．６％

ステージⅠでみつかり手術ができても、５年生存率は５０％程度でステージⅡでは２０％台になってしまいますから予後不良な癌であることは間違いありません。